



1 展示写真に見入る来場者
2 入賞作品を真剣に選ぶ審査員
3 宮川区長から盾を受け取る岩上さん

白 石の魅力を区民の皆さんに再発見してもらおうと開催した第2回「しろいしな風景」写真コンテスト。昨年6月から9月にかけて作品を募集したところ、26人の方から66作品が集まりました。中には道外在住の方からの応募もありました。

今回の募集テーマは「花と緑のある風景」。寄せられた作品は、区の花・バラが美しさを競う環状通や、花や木々が季節を告げる白石サイクリングロードなど、区内の魅力ある風景を撮影したもの。色鮮やかで、その風景を見に出掛けたくなるような力作ばかりです。

最 終審査として、審査員5人による審査会を開催。市民投票で選ばれた28作品に、写真家・千葉一仁審査員が追加候補として挙げた3作品を加え、31作品の中から入賞作品を選考しました。

その結果、最優秀賞1点、優秀賞3点、特別賞5点の計9点の作品が選ばれました。

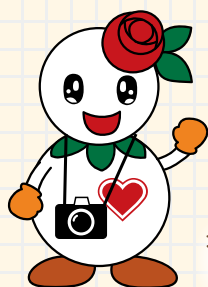
12月11日の表彰式では、宮川学みやかわまなぶ白石区長から最優秀賞と優秀賞の受賞者に表彰盾が手渡されました。

作 品に収められたのはどれも区内にある風景。見慣れた景色にも、季節や見る角度を変えることで違う表情が見えて、新たな発見があるかもしれません。

皆さんも「しろいしな風景」を探しに出掛けてみませんか。

しろいしな風景 を見つけたら...

白石区では、区内で撮影した風景写真を募集しています。応募写真は広報さっぽろ区民のページの表紙や区役所ホームページなどで紹介します。募集要項は、区総務企画課広聴係と区内の各まちづくりセンターで配布しているほか、区役所ホームページに掲載しています。内容を確認の上、ぜひご応募ください。



ご応募お待ちしております!

マスコットキャラクター「しろっぴー」

審査員総評

花や風景などを、自分の目線でとらえ、気負わず素直にシャッターを切っている皆さんの姿が目につきました。また、区の花「バラ」の写真が多く、白石区のイメージを考えながら撮影されたのだと想像します。今はデジタルの時代。撮影した画像を見て、失敗したカットは簡単に消去でき、数多く撮影することができます。フィルム現像の手間も時間もかからず、本当に便利になりました。しかし、機材は変化しても撮影という行為そのものは変わりません。現場に足を運び、目に映ったものをカメラの視点でとらえ、イメージをめぐるながらシャッターを切る。これからも思いを込めて、一枚一枚大切に写真撮影に臨んでほしいと思います。



千葉 一仁さん
(写真家)

札幌市生まれ。幼いころに見た海洋ドキュメントのテレビ番組の影響でダイバーとなり、同時に水中写真を独学する。国内外の海や湖での水中写真撮影を中心に広く活躍。ネイチャーフォトオフィス「TAIL」主宰。NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク監事。白石区在住。

※各作品の講評は千葉さんをお願いしました。

